



いしずえ

恵那北中学校 学校だより 第 255号
発行: 令和4年8月29日(月)

◇「いしずえ」の名称は、校歌の一節「学ぶことそれは礎」から生涯学習の基礎を学ぶ生徒達の心と体の成長を願ってつけました。
◇NOは創刊号以来の通番でつけております。

終戦から77年目の8月に思うこと

校長 可知 浩幸

あっという間に36日間の夏休みが終わり、前期後半(2学期)がスタートしました。20日の親子環境整備活動で久しぶりに全校生徒と対面し、「自己決定の夏休みを経験して、生徒達が一回り大きく、たくましくなったな。」と感じました。きっと、夏休みにしかできない貴重な体験をたくさんさせてもらったからだと、保護者・地域の皆様に感謝申し上げます。

この夏休み、私は意識して、広島と長崎の平和記念式典の様子をテレビ中継で視聴しました。5月に修学旅行で40年ぶりに広島の平和記念公園を訪れたり、ロシアが核兵器を使用するかもしれないという危機感を感じたりしていたからです。

8時15分、恵那市のサイレンに合わせて1分間の黙とうをささげた後、松井市長の平和宣言、岸田総理大臣の演説を聞きながら、原爆資料館を見学した時のことや語り部の石原智子さんのことを思い出していました。そして、グテーレス国連事務総長が演台に立った時、6年前に平和記念式典の場ではなかったですが、アメリカのオバマ大統領が広島の平和記念公園を訪れ、スピーチをしたことを思い出しました。

Seventy-one years ago, on a bright, cloudless morning, death fell from the sky and the world was changed. A flash of light and a wall of fire destroyed a city and demonstrated that mankind possessed the means to destroy itself.

71年前、あかるく、雲一つない晴れ渡った朝、死が空から降り、世界が変わってしまいました。閃光と炎の壁が都市を破壊し、人類が自らを破滅させる手段を手にしたことを示したのです。

Why do we come to this place, to Hiroshima? We come to ponder a terrible force unleashed in a not so distant past. We come to mourn the dead, including over 100,000 in Japanese men, Women and children; thousands of Koreans; a dozen Americans held prisoner. Their souls speak to us. They ask us to look inward, to take stock of who we are and what we might become.

なぜ私たちはここ、広島を訪れるのか。私たちはそう遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせるために訪れるのです。10万人を超す日本人の男女そして子どもたち、何千人もの朝鮮人、十数人の米国人捕虜を含む死者を悼むために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。私たちに内省し、私たちが何者なのか、これからどのような存在になりえるのかをよく考えるように求めているのです。

(中略)

The world was forever changed here. But today, the children of this city will go through their day in peace. What a precious thing that is. It is worth protecting, and then extending to every child. That is the future we can choose — a future in which Hiroshima and Nagasaki are known not as the dawn of atomic warfare, but as the start of our own moral awakening.

世界はここで、永遠に変わってしまいました。しかし今日、この街の子どもたちは平和に暮らしています。なんて尊いことでしょうか。それは守り、すべての子どもたちに与える価値のあるものです。それは私たちが選ぶことのできる未来です。広島と長崎が「核戦争の夜明け」ではなく、私たちが道徳的に目覚めることの始まりとして知られるような未来なのです。

77年前、被爆した広島・長崎は“放射能”という目に見えない敵に苦しめられています。そして、今は新型コロナウイルスという同じく目に見えない敵に世界中が苦しんでいます。私たち人間は、目に見えない敵を恐れ、不安になる生き物です。この不安や恐れは嫌悪に変わり、嫌悪の対象を偏見・差別することで安定しようとする。そんなことに決してならぬよう、オバマ大統領が言った「道徳的に目覚めることの始まり」という言葉のとおり、「勇気と思いやりをもって子どもたちの平和で幸せな未来を守っていかねばいけない」と、思いを新たにしました。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。